

東京大学総合図書館

〔来歴と概要〕 本館の名称が附属図書館から総合図書館に改称されるのは、昭和三十八年（一九六三）九月である。

明治一〇年（一八七七）一〇月に法・理・文学部構内の旧教師館を修理して書庫三棟を建て、図書館としたのが始まりである。しかし、大正一二年（一九二三）九月の関東大震災で、本館に収蔵されていた多くの図書を失う。

この震災のあと図書蒐集のための委員会が設けられ、国内および国外からの寄贈・購入で、現在の蔵書数一二万冊（うち洋書四六万冊）を誇る。その質・量において、また歴史性において文字通りわが国屈指の図書館である。

医学書に限れば、尼子富士郎旧蔵書の医学雑誌（邦文）。洋書には、河本重次郎寄贈書の眼科学を中心とする元ベルリン大学教授ヒルシュベルグ旧蔵書、シュネル旧蔵書がある。

和漢の古医学に関する図書の多くは、昭和三二年（一九五七）七月に登録された土肥慶藏旧蔵書の鸚軒文庫（一五四四部・四六一八冊）である。

土肥の経歴については、「文庫めぐり」の鸚軒文庫（四八巻・一号）をご参照下さい。

その他、徳川頼倫公によって創建された紀州徳川家伝来

の南葵文庫・昭和三年に購入された浅田宗伯旧蔵書・緒方洪庵記念文庫本・呉秀三旧蔵書・渡辺信旧蔵書の青洲文庫本・昭和七年に寄贈された田中芳男旧蔵書・津山藩の御典医を勤めたという家系の藤原勝旧蔵書・森鷗外文庫本・渡部信旧蔵書など、多くの古医書の稀覯本が収蔵されている。総合図書館の特別書（貴重書）には、多くの自筆本が見られる。

丹波元簡・丹波元胤編『医籍考』、浅田宗伯著『皇国名医伝』・『牛渚漫録』・『読書漫録』・『栗園漫録』・『直舎日抄』など、宇田川玄真訳『新撰 和蘭局方』（レイデン版）・（アムステルダム版）・『遠西医範』、などの自筆本が収蔵されている。

〔蔵書目録〕 古医書目録には、和装の文献一万一一八冊を収録した『東京大学総合図書館古医学書目録』（東京大学総合図書館編・昭和五三年、雄松堂書店発売）がある。

〔所在地〕 〒一三〇〇三三

東京都文京区本郷七―三―一 東京大学総合図書館

〔利用法〕 多くの特別書（貴重書）が収蔵されているので、前もって利用を申し出るようお願いしたい。

利用全般について

電話〇三―五八四―二六四六

FAX〇三―五八四―二六一一

（後藤 志朗）